

怪我の初期手当てに関する情報提供の研究

高島 知宏

性別・年齢を問わず、生活にスポーツを取り入れる人が増えている。体を動かすことは、怪我をする危険性を少なからず伴っている。しかし、アマチュア選手や一般の人は、体を動かす、スポーツをするその場に医師がいないことが多く、怪我をした際には自ら初期手当てをしなければならない。どこにいても、簡単に、わかりやすく、信頼性のある初期手当てに関する情報を入手できる Web サイトがあれば、一般の人は怪我をした際に自ら適切な初期手当てができると思う。

しかし、現状の Web サイトでは信頼性にバラつきがある、医療の専門知識の少ない人の視点で自由に検索が行えない、文字だけで表現されていてわかりづらいなど、とっさのときに利用するには信頼性、操作性、わかりやすさに問題がある。また、利用者の多くが初期手当てに関する情報の信頼性評価のための知識を有していないという問題もある。

本研究は、医療に関する知識の乏しい一般の人を支援することを目的とし、怪我の初期手当てに関するわかりやすく、信頼性のある情報提供の方法を提案する。

はじめに、怪我の初期手当てに関する情報提供を行っている Web サイトがどのように利用者の情報要求を特定し、情報を提示しているかを調査した。また、初期手当てに関する情報として提供する情報の適切な情報源を検討し、収集した情報の信頼性を保つために、選択する情報源の条件を定め、適用した。そして、選択した情報源から怪我と対応する初期手当ての情報を収集し、初期手当てに関する情報がどのような情報によって構成されているかその構成要素を分析し、整理した。

次に、収集し整理した情報を用いて、一般の人にもわかりやすい怪我の初期手当てに関する情報提供方法を検討した。「外傷名」や「症状」という利用者自身での判断が難しい選択肢から初期手当て方法を検索するモデルとは異なり、「初期手当て」や「部位」という利用者自身で判断しやすい選択肢から初期手当て方法を検索することができる新しいモデルを提案し、このモデルに基づくツールである、「初期手当て方法提供ツール」を試作した。

初期手当て方法提供ツールでは、「初期手当て要素×部位」での検索を行えるようにしたため、初期手当てに関する情報を検索する際に、「外傷名」や「症状」という判断の難しい選択肢を選択する必要がなくなった。また、専門的であるばかりでなく、その数も多く、医学の専門知識に乏しい一般の人が一つを選択することは難しいと考えられる「外傷名」を選択することなく、初期手当の方法を調べることができるようになった。さらに、初期手当てに関する情報に、図や写真、情報源をあわせて提供することにより、文字だけで初期手当ての方法が記述されている場合よりもわかりやすい情報を提供することが可能となり、利用者が必要であれば詳細を確認することが可能となった。したがって本研究が提案した初期手当て方法提供ツールは、医療に関する知識の乏しい一般の人を支援できると考える。

(指導教員 岩澤まり子)